

会 議 録

会 議 の 名 称	小金井市新庁舎・(仮称) 福祉会館建設 基本設計 第4回 こがねいミーティング
事 務 局	佐藤総合計画株式会社 渡辺 猛 河田 健 猪原 昭宏 井上 遼 公共施設マネジメント推進担当課長 今井 哲也 企画政策課企画政策係主査 渡邊 健介 企画政策課企画政策係主任 小林 洋輔 萩野 裕人 福祉保健部長 中谷 行男 福祉会館等担当課長 前島 賢 地域福祉課地域福祉係主査 山口 晋平
開 催 日 時	令和元年12月19日午後7時00分から午後9時00分まで
開 催 場 所	本庁舎 第一会議室
出 席 者	卯月 盛夫 委員長 齋藤 啓子 委員 金子 和夫 委員 上原 和 委員 坂野 勝一 委員 諏訪間 千晃 委員 中村 彰宏 委員 森田 眞希 委員 石塚 勝敏 委員 矢野 典嗣 委員 高橋 茂夫 委員
傍 聴 の 可 否	可
傍 聴 者 数	6人
会 議 次 第	1 開会挨拶 2 第3回こがねいミーティングの方針検討 3 第4回市民ワークショップに対する方針の検討 4 閉会
会 議 結 果	別紙のとおり
発言内容・発言者名 (主な発言要旨等)	別紙のとおり
提 出 資 料	資料1: 第4回こがねいミーティングアジェンダ 資料2: 第3回こがねいミーティング会議録 資料3: 第3回こがねいミーティングの方向性(案) 資料4: 第4回設計ワークショップ 資料5: 第4回設計ワークショップまとめ 資料6: こがねいミーティングの方向性まとめ(案)
そ の 他	—

次第1 開会挨拶

《事務局より開会及び挨拶》

次第2、3 第3回こがねいミーティングの方針検討、第4回市民ワークショップに対する方針の検討

【事務局】 今回のミーティングは、最後のまとめとなる。これまでのワークショップやこがねいミーティングでの議論、お示しいただいた方向性等を踏まえて、設計者と事務局において行ってきた検討状況について、ご報告させていただく。

また、本日は、作成した模型も使いながら、ご報告いただく。

第3回こがねいミーティングから現在の取組みについて説明させていただく。

10月27日には、基本設計者選考を行っていただいた委員の皆さんに、基本設計の進捗確認を行っていただくための前期レビューを公開で実施した。

設計レビューでは、設計者選考の際にご意見をいただいた、建物の構造、マルチスペースや多目的室等の活動スペースを繋ぐ仕組みであるコミュニケーションネットワーク、環境配慮に関するご意見をいただいた。

広場に関しては、安全性の確保、震災時の活用、福祉会館の屋上の見せ方等について、しっかり検討するようにといったご意見もいただいた。技術提案書を踏まえた現段階での基本設計の進捗については概ねご理解いただけたものと認識している。

11月30日には、第4回ワークショップを開催し、「市民利用スペースの使い方を考えよう」をテーマに、これまでのWS、こがねいミーティング、UDレビューでの意見・要望等を平面図に落とし込み、改めて皆さんから意見を伺った。

本日は、第3回こがねいミーティングの方向性を議論した後、全体についての議論をお願いしたい。詳細については、設計者より願います。

【佐藤総合計画】 第3回こがねいミーティングでは、多目的室について、管理運営面に関する意見もいただいた。第3回こがねいミーティングの方向性（案）として大きく4つにまとめ、検討方針を示す。1つ目は多目的室の設えであるが、多目的室は、諸室の規模、用途等に応じて、防音対策、床材、設備等の使い分けができるよう検討する、パーテーションで区切る等柔軟な対応、災害時の活用等も考慮した設え、障がい者等に配慮した設備を検討することとする。2つ目は、吹抜けに面した多目的室のデザイン等であるが、吹抜けは空調効率等を考慮した検討を行う、子育てひろばに面する部分等の安全性に配慮する、吹抜けに面した多目的室等の配置、仕様を検討することとする。3つ目は、福祉会館屋上の特性を考慮した検討であるが、福祉会館の屋外階段の活用方法、設えを検討する、福祉会館屋上の景色、風向き等の特性を考慮した検討を行うこととする。4つ目は、サイン計画と掲示物のバランスであるが、現状の計画ではガラス面が多く、壁面が少なくなるが、わかりやすいサイン計画となるよう掲示物とのバランスを考慮した検討を行うこととする。

第4回ワークショップでは、市民利用スペースの使い方を考えようをテーマに、はじめに今までの意見をまとめた平面図をもとに反映箇所について説明した。また、ひろば・マルチスペース・多目的室・共用部・市民参画スペース・印刷作業室・ロッカー・メールボックス室の事例紹介を通して、意見をいただいた。ひろばについては、親水ひろばに関する意見や夜間、屋上のセキュリティ対策等に関するソフト運営について意見があった。本日は、親水ひろばについては、ワークショップで多くの意見をいただいたこともあり、設計者案として、2案提示させていただく。

【委員長】 前回のこがねいミーティングで皆さんから出された意見を、基本設計者と市でまとめた資料ということである。資料について、説明いただいた親水ひろばを含めて意見を伺いたい。

【委員】 敷地南側通路を自転車が走ることが予想されることから、安全対策を講じる必要がある。運用ルールだけでなく、自転車が入れないようにハード面でも対応して欲しい。

【委員】 親水ひろばの前を歩けるのであれば、人が来る仕掛けを工夫してほしい。また、こども

ひろばから親水ひろばまでひろばを繋げるような工夫は考えられないか。

【委員長】 親水ひろばは建物の裏側に設置されるため、人の流れを考慮する必要がある。

【委員】 親水ひろばは、ビオトープのように土に水を張り、自然の中を作るような方法は考えられないか。管理上、小川にせず、池が2つ程あるのもよいと思う。また、1階庁舎北側の展示スペースは文化財なども展示ができるように、ガラスケースがあってもよいと思うがどのような設えを想定しているか。

【佐藤総合計画】 展示については、市民の活動スペースと考えているので、特定物だけを展示するのではなく、様々な団体が使える設えを想定している。

【事務局】 生涯学習課からは、文化財などを期間を区切って展示したいという意見がある。

【委員】 出し入れができる可動式の展示台や衝立で対応している例が多い。常設ではないほうがよいと思う。ピクチャーレールやライティングダクトとスポットライトを設置し、内外から展示物が見えるようにするとよいのではないか。

【佐藤総合計画】 魅力的な展示スペースとなるような設えを考えていきたい。

【委員長】 展示はどこかがまとめて管理・運営を行ったほうがよいと思うが、展示は何課が担当しているのか。

【事務局】 これまでは、各課が対応しており、現段階で管理、運営方法に関する詳細な検討はできていない。

【委員】 今後の課題として、魅力的な展示スペースとなるよう、展示スタッフの研修を事前に行ってみてはどうか。

親水ひろばについては、市民団体が管理できるとよいと思う。様々な課題があるとは思いますが、自然観察をする、学習する場としてはよいのではないか。

【委員】 展示スペースの運営は、各課で場所の取り合いとなるので、担当窓口をつくったほうがよい。

こどもひろばに水場をつくり、南は散策するエリア、自転車を置くエリアとして考えるのもあるのではないか。

【委員】 防災、人の動線、フリースペースという3つの視点から考えた。防災としては、非常口が多いので良いと感じた。人の動線としては、スムーズに移動できるように配慮してほしい。フリースペースがあると宮地楽器ホールのように人が集まるので良いと思う。

【委員】 3つのひろばは、散策路としてつながっているなど、ストーリーの中でつながるようになるとよいと感じた。

【委員】 福祉会館内には、安全面から上部にカーブミラーを設置するとよいのではないか。

【委員】 カーブミラーは高さの配慮が必要ではないか。外部テラスは、車いすの人も利用できるような配慮があるとよい。親水ひろばについて、管理方法とあわせて、衛生面が指摘される場所なので、市と協議し、ルールづくりも配慮してほしい。

【委員】 多目的室や市民参画スペース周辺のレイアウトについては、これで市民が本当に使いやすいのか、イメージしにくい。本日配布の資料についてはパワポの最新レイアウトともまた違っているため、まず最新のレイアウト資料をいただいた上で意見を出したい。また、今回の最新の案を提示した上であらためて市民との意見交換ができるよう検討してはどうか。また、市民協働支援センターの運用もからめた内容は、市内の各団体にも意見を聴くような場を設けたほうが良いのでは。

【事務局】 各団体へのヒアリングや市民ワークショップ等で意見を伺い、設計を行ってきた。市民

協働支援センターの運用や多目的室等の使い方については、意見交換を行っていく必要があると考えている。

【佐藤総合計画】 多目的室等の使い方をイメージできる資料と最新のレイアウト資料を作成し、追加資料として委員の皆さんに配付する。

【委員長】 追加資料を作成いただき、意見等があれば事務局へ連絡することとする。
福祉会館があることによって、多目的室、展示方法が重要となってくる。ここが、複合施設としての肝である。今後、設えなどについては、ヒアリングをして、詳細を詰めていく必要がある。また、2階の多目的室は活動の様子がわかるような工夫をお願いしたい。

【佐藤総合計画】 活動のイメージは今後進めていき、安全性の確保やフリースペースの使い方の工夫を行っていきたい。

【委員】 障がい者、高齢者、こどもの視点を入れてほしい。特に子ども家庭支援センターの声を確認してほしいと思う。今回の複合施設は福祉の視点を取り入れてほしい。

【委員】 子どもや子育て世代が市庁舎に来たくなるようになるとよいと思う。

【委員】 庁舎真ん中にある2つの出入口のデザインが重要となるが、どのように考えているか。また、入口まで道路から距離があるので、夜間も行きたくなるようアプローチを魅力的に作ってほしい。

【佐藤総合計画】 本施設は、吹き抜けのある真ん中のマルチスペース及び市民参画スペース、多目的室が重要となるため、マルチスペースへの出入口を主出入口として考えている。魅力的な出入口となるよう検討したい。

【委員】 災害時の利用イメージはどのようなものか。

【佐藤総合計画】 プロポーザル時に示したものが骨格となる。今後、全体がイメージできるものを示していく。

【委員】 福祉会館だけでなく庁舎も一体であるため市職員が快適に働ける環境であることも重要である。新庁舎にいる職員の笑顔が絶えない設計にしてほしい。また、福祉会館の市民利用は、福祉関係施設としてリスペクトされる利用目的に限るのが良いと思う。

【委員】 面積縮減は、市の方針としてあるが、一定の執務スペースは必要である。また、親水ひろばについては、コスト、効果や管理運営等を踏まえ検討が必要と考えている。

【委員長】 本日は、展示スペース、親水ひろばについて主に議論いただいた。展示スペースについては、展示方法を議論し、展示内容が重要であるとのことだった。また、展示を管理・運営する側の研修も必要ではないかという意見もあった。親水ひろばについては、水とみどりの姿を見たいというものだった。流れやたまりを大切に、東側に人を呼び寄せることが重要であるとのことだった。また、管理については市民団体が行うとよいという意見があった。全体としては、市庁舎・福祉会館がユニバーサルデザインの視点に立つことが重要であるという議論があった。その中で、建物と敷地の関係、多目的室の仕様に配慮してほしいということだった。さらに子どもや子育て世代が来たくなる施設づくりや災害情報を発信するなど災害時の施設の機能についても議論ができた。親水ひろばについては、基本設計の残りの期間を考えて、できること、できないことを整理して、基本計画に記載のあるような「水とみどり」に十分配慮した設計となるよう、引き続きの検討をお願いしたい。

【事務局】 追加資料については、後日送付させていただく。今後のスケジュールについて、報告させていただく。基本設計は、今年度末までに策定することになっており、来年1月末までには設計（案）を作成し、2月にはパブリックコメント、市報特集号、市民説明会を予定している。パブコメ等を経て3月末までに、基本設計を策定する予定である。来年度からは実施設計に着手する予定としている。

こがねいミーティングについては、非常に熱心に議論をいただけてきたところであり、実施設計においても、引き続き、検討を行っていただけるような体制を整えたいと考えて

いる。例えば、皆さんからいただいたご意見が、どのような形で設計に反映されたかを確認していただくとか、サインについてなど、どのような仕組みができるか、設計者とも相談させていただきたい。

【委員長】 関わり方については、事務局と設計者に一任したいと思う。前向きな検討をお願いする。

以上